

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育方針のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。 3 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

2 中期的目標

1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現 (1) 基礎学力の充実と授業における ICT の効果的な活用を図る。 ア 1 年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を行って基礎学力の充実を図る。 イ 教科・科目の特質等を踏まえた上で、生徒 1 人 1 台端末及びプロジェクターを効果的に活用して ICT を効果的に取り入れるとともに、生徒が協力して学び、成果をアウトプットできる授業を推進する。 ※ 少人数授業アンケートの実施教科平均の肯定率 令和 6 年度 90%以上を維持 (R1：86%, R2：90%, R3：92%) ※ 教育産業の 1・2 年生基礎力診断テストの GTZ 平均値 (国数英) 令和 6 年度までに 2 段階向上 (R1：D1+, R2：C3-, R3：D1-) (2) 希望する進路の実現を図る。 ア 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現する。 イ 将来に夢や志を持てるよう、自らの職業観・労働観の形成を重視したキャリア教育を行い、卒業時進路未定者を減少させる。 ※ 3 年生徒向け「自分の希望した進路への満足度」 R6 年度 80% (新規) (3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行うとともに、授業力の向上、観点別評価の定着・改善を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度 令和 6 年度 75% (R1：66%, R2：68%, R3：67%) 2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成 (1) 服装・遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導や教育相談を通して、社会人として通用する基本的な規範意識の定着を図る。 ア 学校目標である「時を守り」の徹底を図り、遅刻指導体制を充実させ遅刻数を大幅に減らす。 イ 課題を抱える生徒について SC・SSW と緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、支援委員会を中心に指導方針を明示する。 ※ 本校独自の小遅刻 (学年ごとに早めに設定した門遅刻) と大遅刻 (1 限遅刻) の合計 令和 6 年度 4500 以下 (R1：5608, R2：5035, R3：5500) ※ 皆勤者数 令和 6 年度 140 人以上 (R1：131 人, R2：175 人, R3：102 人) ※ 生徒向け学校教育自己診断「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定率 令和 6 年度 70% (R1：54%, R2：63%, R3：60%) (2) 特別活動等の活性化を図る。 ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるように支援する。 イ 部活動、各種検定等の優秀者に対し、式典の際に「守口東賞」(副賞：オリジナルタオル) を贈り、特別活動や検定試験への参加を促す。 ※ 部活動加入率 令和 6 年度 50% (R1：40%, R2：45%, R3：36%) ※ 生徒向け学校教育自己診断「学校行事が楽しい」肯定率 令和 6 年度 85%以上の維持 (R1：71%, R2：77%, R3：83%) (3) 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には「いじめは絶対に許さない」との強い決意のもと、迅速かつ適切に対応する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 令和 6 年度 82% (R1：70%, R2：76%, R3：76%) (4) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。 3 地域に愛される魅力ある学校づくり (1) 情報発信と外部組織との連携を図る。 ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 イ 教育アプリ、ホームページ、メールマガジン、校内ディスプレイ等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信するとともに、中学生にとって行きたい学校となる。 ※ 保護者向け学校教育自己診断「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」肯定率 令和 6 年度 85% (R1：68%, R2：71%, R3：77%) (2) コロナ禍における国際交流の推進を考え、授業等を通じた体験を行うとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。 4 機能的な校内体制の整備と働き方改革の推進 (1) メール・携帯連絡網・校内ネットワーク等の活用によって校務を効率化し、情報共有の機会を更に増やしながら、会議時間の短縮を図り、生徒と向き合う時間の確保を図る。 ※ 教職員向け学校教育自己診断「職員会議等の回数や時間は適切に行われている」肯定率 令和 6 年度 85%以上の維持 (R2：70%, R3：84%) (2) 安全衛生委員会を更に活性化し、教職員間の意思疎通を円滑にするとともに、縦・横の風通しの良い職場環境の実現をめざす。 ※ ストレスチェック分析結果における「職場の総合健康リスク」(全国平均 100 で低い方が理想) 令和 6 年度 80 ポイント台の維持 (R1：97, R2：90, R3：86)
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【進路指導・生徒指導等】(※以下〔 〕内は前年度結果である。) ・新規項目の 3 年生対象「自分の希望した進路に満足している」が 96%となり、本校がめざしている「一人ひとりの生徒が希望する進路」が実現できた。 ・生徒「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」は 64%〔60%〕、保護者「子どもが困った事や悩みがある時、先生は相談に乗ってくれる」79%〔70%〕であった。カウンセリングマインドを持って、状況に応じて SC・SSW と連携しながら、丁寧に相談に乗ってきたことで、前年度より肯定率が上がった。	第 1 回 (7/14) ・スクール・ミッション案に関連して、(エ) 特色・強み・独自性は注目される。韓国の交流や近隣の保育活動など、独自の取組みをアピールすると良いのでは。 ・SSW の領域は教員には難しい部分があるので、どんどん活用することを期待する。 ・住宅の建替えで小学校では児童が増え続けていると聞いている。いずれ高校生になるから、今後、守口市内の高校生は増えると考えている。 ・仕事でも動画配信サービスを活用している。動画配信サービスを活用した広報に取り組んでどうか。

府立守口東高等学校

【学習指導等】 - 生徒 1 人 1 台端末を活用した授業を行った教員 82%となり、授業への工夫が進んだ年度となった。予算確保のため、年度途中になったが、全教員へ 1 人 1 台端末を配付することができたため、今後の広がりも期待している。あわせて、「授業力向上のため、工夫・改善に努めている」も 90% [84%] となり向上した。 「いちばん望む授業形態」について、①高校生として基礎学力が身につく授業、②生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整する授業、③進路希望が実現できるように学力を高める授業に対して、生徒は①>②>③の順であった。2 年生は①が多く、3 年生は②が多かったため、生徒の状況に合わせて対応していくことが重要である。教員において授業で気を付けていることは①>②>③。保護者は③>②>①の順であり、生徒・教員と相違している。 【学校運営】 - 教職員「緊急の課題に対して迅速な対応ができている」は 87% [78%] となり上昇した。昨年度課題であった教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は 80% [49%] となり、今年度、連携が進み組織的な学校運営へと繋がった。 - 教職員「教職員は生徒の意見、保護者の意見をよく聞いている」について、生徒の意見については 92% [89%]、保護者の意見については 95% [89%] であり、生徒・保護者に寄り添った対応を行い、本校の強みを高めるように取り組んだ。	第 2 回（1 /27） - 入学生に対して、どの地域から何に魅力を感じて入学したかを分析することは、広報方針を考える際に重要である。 - ブログを頻回に更新して生徒の活動の紹介をすることは大切である。地域に愛される学校になること、部活動の披露等を含めて地域の行事に積極的に参加・連携することも大切。 - 商工会議所には地域の多数の企業が繋がっている。地元で就職・活躍してもらえば、守口東の生徒の良さを地域に知ってもらうことに一役を担えると思う。 - 経済的に厳しい家庭があり、貧困問題は学校だけでは解決できないと感じる。 第 3 回（2 /14） - 全教員にも 1 人 1 台端末を配付できていることがすばらしい。ペーパーレス化の促進がやりやすくなるだろうと感じた。 - 取得した検定合格は大学受験等、進路実現で有利になる。重要な役割を果たすことを生徒に伝えて、一層推進していくことで、さらに好循環となっていくと感じる。 - 守口東高への R5 年度進路希望者数が伸びていることに関して、どう分析するか。 →①広報活動の活発化・工夫化、②大学への合格実績が伸びていること等があると考えている。 - コロナ禍で防災避難訓練の実施に苦労している学校もあると聞く。きちんと実施できて良かった。特徴的な内容はあるか。一校外で地下街に避難する際の津波や高潮による危険性を伝達した。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	（1）基礎学力の充実と授業形態の改善 ア 少人数習熟度別授業の実施 イ 教科・科目の特質等を踏まえ、授業における ICT の効果的な活用 （2）希望する進路の実現 ア 一人ひとりの生徒が希望する進路の実現 イ キャリア教育 （3）主体的・対話的で深い学びの実現、授業力、観点別評価	（1） ア 1 年生国数英は少人数習熟度別授業を行う。 イ 各教員が教科・科目の特質等を踏まえた上で生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用した授業に取り組むとともに、「授業見学週間」においては、一層積極的に生徒 1 人 1 台端末を活用した授業を公開する。 （2） ア ・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教職員が全力で生徒をサポートする。 ・進学講習を継続的に行う。 ・英語、漢字、情報等各種検定の講習・表彰を行い、受験を奨励し、将来の進路に生かす。 イ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考える機会を設ける。 ・高専大連携として出前授業を実施する。 （3）首席を中心に「授業見学週間」や「研修」を実施し、学校全体で授業改善に取り組む。	＜学校教育自己診断は生診：生徒、保護：保護者、教診：教職員と略＞ （1） ア 少人数授業アンケートの平均肯定率 90%以上を維持 [92%：国 90%, 数 89%, 英 96%] イ 生徒 1 人 1 台端末を活用するように取り組んだ授業実施の教員 70%（新規） （2） ア ・3 年生診「自分の希望した進路に満足」70%（新規） ・3 検定の受験者合計 10%増 [166 人：英検 16, 漢検 69, 情検 81] イ 出前授業参加者数 10%増[84 人] （3）教診「授業力改善」肯定率 87% [84%]	（1） ア 肯定 95%[1 年生：国 95%, 数 92%, 英 98%]となり、前年度の 92%よりも上昇した。どの教科の肯定率も前年度より上昇し、効果を上げている。(◎) イ 生徒 1 人 1 台端末活用授業実施の教員 84%、全教員に端末配付を行えた。更に活用を図りたい。(◎) （2） ア ・3 年生「自分の希望した進路に満足」96% 一人ひとりの生徒が希望する進路の実現は今後も重点的に取り組んでいきたい。(◎) ・検定の受験者合計 77%増 (293 人：英検 13, 漢検 87, 情報・ワープロ検 193) 他に数検 4。授業や講習でも指導している。上位級合格者を表彰してオリジナルタオルを副賞として授与している。(◎) イ 高専大出前授業 96 人で 14%増。高大連携以外に専門学校からも招いて出前授業を実施し、進路適性を考える機会とし、興味をもつ生徒が増えた。(○) （3）「授業力改善」90%となり、授業見学や観点別評価の研修など、多くの教員が取り組んだ。(◎)
2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成	（1）規範意識の定着 ア 遅刻指導体制の充実 イ 課題を抱える生徒に SC・SSW 連携対応 （2）特別活動等の活性化 ア 各種行事や部活動の活性化 イ 特別活動や検定試験への参加促進 （3）いじめへの迅速かつ適切な対応 （4）防災体制の構築	（1） ア 登校時に生活指導部や担任が門に立つとともに、粘り強く遅刻指導を行い、遅刻者数を減らす。 イ 支援委員会を中心に SC・SSW と連携しながら、寄り添う姿勢を大切にする。 （2） ア 顧問体制の充実と、紹介映像の更新作成で部活動紹介・体験を充実させ、加入率を向上させる。 イ 終業式・始業式の際、守口東賞を贈り、特別活動や検定試験への参加を奨励する。 （3）いじめを認知した際には、いじめられた生徒の立場に立って、迅速かつ適切に対応する。 （4）南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に則した避難訓練を実施する。その際、予告なし避難訓練も行う。	（1） ア ・年間大小遅刻者数 5200[5500] ・皆勤賞 115 人[102 人] イ 生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率 65% [60%] （2） ア 部活動加入率 41%の達成 [36%] イ 部活動表彰や検定合格者に 20 人/回贈る。[18 人/回] （3）生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 78%[76%] （4）具体的な災害を想定した予告なし避難訓練 1 回以上実施[1 回]	（1） ア ・大遅刻 3222（1 限遅刻）、本校独自の小遅刻（近隣地域への混雑を避けるために学年ごとにずらして早めに設定した門遅刻）2140 で合計 5362。継続して指導に努めたい。(△) ・皆勤賞 100 人。受賞した生徒を称えるとともに、次年度は目標達成となるように、一人ひとりに寄り添いながら奨励していきたい。(△) イ 「相談できる先生」64%。コロナ禍でストレスや不安が続く中、SC・SSW とともに連携しながら取り組んだ。今後とも、丁寧に相談を行っていきたい。(○) （2） ア 部活動加入率 27%。コロナの開始時期に入部減になったことで、上級生も少ないままになっている。活発な部も出始めているため、広がりを期待したい。(△) イ 皆勤賞数を含まずに守口東激励賞は年間 170 人で 28 人/回。検定上位級合格や授業作品の受賞による表彰等が増えている。(◎) （3）「いじめ対応」83%となり、1 年＞2 年＞3 年で低学年ほど成果があった。(◎) （4）予告なし避難訓練 2 回。具体的な災害や事例を説明しながら訓練を行った。(◎)

府立守口東高等学校

3 地域に愛される魅力ある学校づくり	(1) 情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携	(1) ア ・地元中学校への出前授業や中学校内説明会への参加を行う。 ・支援学校等との交流を行う。 ・中学校・支援学校の授業見学を実施する。	(1) ア ・中学校出前授業3回[3回] ・支援学校交流2回[2回] ・中学校・支援学校の授業見学2回[2回]	(1) ア ・中学校への出前授業6回。本校の事を知ってもらう機会となった。(◎) ・支援学校交流2回。今後とも継続したい。(○) ・中学校1回、支援学校1回の授業見学で2回訪問。初任者や講師を授業見学に派遣することができて、良い取組みとなった。(○)
	イ 情報の発信と、中学生の行きたい学校	イ ・ホームページの学校行事や部活動等の記事を随時更新し、1日のアクセス数を向上させる。 ・正門横電光掲示板で流すメッセージを時期に応じて変更する。	イ ・アクセス数1日平均10%増[193件/日] ・保診「HPやメルマガで学校の様子がよくわかる」肯定率80%[77%]	イ ・Webアクセス数平均77件/日。前年度は、コロナ臨時休校やオンライン授業の指示を頻繁にWebで出していたためアクセス数が増加した側面があった。今年度はそれがいないことの影響もあったと考える。ただ、もう一つの目的の「中学生の行きたい学校」については、進路希望調査において大きく増加が続くとともに、出願者数が募集人員の1.07倍となり、4年間の最高倍率となった。今後、魅力的な取組み等の発信が見易いWebページに作り替えたい。(△) ・「HPやメルマガで学校の様子がよくわかる」74%同様に、見易いWebページに作り替えたい。(△)
4 整備と働き方改革の推進 機能的な校内体制の	(1) 校務の効率化	(1) 教職員間のメール・携帯連絡網・校内ネットワーク・文書連絡等の活用によって校務を効率化する。運営委員会において議事を精選して、職員会議の時間短縮を図る。あわせて、「教職員の皆さまへ」を発行して通知等を周知する。	(1) 教診「職員会議等の回数や時間が適切」肯定率85%以上維持[84%]	(1) 「職員会議の回数・時間が適切」76%であった。職会資料の受取りに時間がかかり、説明や意見交換時間を圧迫している。教員にも後半、1人1台端末の配付ができた。今後はペーパーレス化やICT活用など工夫を図っていきたい。(△)
	(2) 風通しの良い職場環境の実現	(2) 安全衛生委員会が、産業医の時節に応じた専門的な情報を職場で提供する。縦・横の風通しの良い職場環境の実現をめざすとともに、上司・同僚からのサポートの維持に努める。	(2) ストレスチェック「職場の総合健康リスク」80ポイント台の維持[86ポイント]	(2) 「職場の総合健康リスク」98ポイントとなり、大阪府立学校平均値と同じに留まった。次年度は上司・同僚からのサポート体制の充実に一層努めたい。(△)